

「赤堀ふれあいまつり」のボランティア活動の効果

田中 雅章¹ 田村 禎章²

要旨

ユマニテック短期大学（保育士養成施設）で開講する体験型授業の一つの科目として「地域ボランティア実践」（通年2単位）がある。この地域ボランティア実践では、学外でのボランティア体験がその後に実施される保育実習や幼稚園実習の実習前の心構えや実習前の準備への動機付けとなる意義のあるボランティア体験と位置付けている。ところが、2020年度の学外活動は、コロナ禍により参加できるイベントは少なかった。しかし、「赤堀ふれあいまつり」などの子どもを対象としたイベントは、ボランティアスタッフや参加者の新型コロナ感染防止を第一に配慮したうえで実施することができた。

三重県四日市市赤堀地区で毎年10月に実施される「赤堀ふれあいまつり」では、子ども向け縁日が行われ、ユマニテック短期大学の学生も遊びブースを出展した。この縁日に参加することは、保育所や幼稚園で行われる夕涼み会などのイベント運営を円滑に行うための経験になると思ったからである。

調査分析の対象者はそれらのイベントに参加し、最後の授業で事後アンケートに回答した学生である。調査は、Google formsで作成したWebアンケートに学生のスマートフォンからアンケートの回答を入力するという方法で実施した。回収されたアンケートは、内容を精査した後、Google Spreadsheetの計算式で集計と分析を行った。その分析結果から、学生は学外活動に参加することで様々な経験を得ていたことがわかった。その一方で、ボランティア活動の理解や取り組み姿勢によって、学生個々の意識差も明らかになった。

今回のアンケート結果の分析を通して、今後のボランティア活動に取り組む事前指導の基礎資料にしたいと考えている。

キーワード

地域連携、福祉教育、ボランティア学習、レクリエーション支援、イベントボランティア

1. はじめに

保育所や幼稚園などの保育現場では、季節の行事として夕涼み会などのお祭りのイベントが実施される。そこでは、保育現場職員や保護者がイベントの企画・準備・運営を担うことが多い。しかし、お祭りのイベントで子ども達が楽しめるように環境設定ができるようになるには、ある「一定の経験」が必要である。ここで言う「一定の経験」とは、イベント準備や運営の経験を重ね、子ども達に楽しんでもらおうとする心遣い（おもてなし精神）やコミュニケーション能力を高めるようにトレーニングすることであり、それを授業達成目標として位置づけている。

¹ 南山大学 エクステンションカレッジ

² ユマニテック短期大学 幼児保育学科

さて、ユマニテク短期大学に設置する科目「地域ボランティア実践」（通年2単位）の授業の目的の一つは、学生の将来を考え、保育現場で実施される生活発表会の裏方の仕事や夕涼み会などのイベント運営が円滑に実施できるように、体験を通じてノウハウを得ることにある。また、保育の専門家として現場で実践するためには、相手のことを考えながらコミュニケーションをとることが重要であり、常に相手の立場で行動できるように行動できる資質と意識の高さが必要となることもこの科目のねらいの一つとしている。

さて、ユマニテク短期大学が地域のボランティア実践をする上で重要視をしている点は、以下の4点である。

- ①地域とともに生きることを学ぶこと。
- ②保育者養成と建学の精神もあるように地域の社会貢献を行うこと。
- ③社会貢献に参加することで豊かな人間性を高めること。
- ④保育者として社会性及び自主性を涵養し、地域に貢献し得る有用な人材を育成すること。

つまり、地域ボランティア実践は、地域貢献活動を通して、学生の成長、教育的効果を期待するとともに、地域においてボランティア活動を行うことそのものが、この短大が地域の社会資源のひとつとして機能することにつながることを意図している。そして、この機能を効果的に活用することができれば、学生のボランティア活動が、地域と短大をつなぐ役割を期待できると考えており、この理念は開学時より構想していたものである。

例年であれば学生が参加できたイベントだが、2020年度のイベントは、コロナ禍のもと次々と中止になった。そのため、学生が参加できたとしても、制限されたボランティア活動にならざるを得ない状況下での実施であった。

本研究の動機は、このようなコロナ禍での地域ボランティア実践の取り組みではあったが、十分な学生の成長や良質な変化を明らかにしたいと考えたことにある。学生の体験をリアルタイムで収集できるように、ボランティアに参加した感想を学生のスマートフォンから収集できる仕組みを実装した。また最終授業では、地域ボランティア実践で体験した感想のアンケートを実施し、その分析を行った。

2. 研究の目的

本研究は、地域ボランティア実践を受講（学外での実践活動含む）した学生の成長過程や学生の意見を明らかにするとともに、実践活動で地域へのボランティア活動として準備したイベントが適切であったか否かの検証を試みることを目的とする。またボランティア実践によって、参加学生のボランティア活動に対する意識の差を明らかにし、それらを通して、学生がボランティア活動を十分に活用して自己成長できるように、事前・事後指導の内容を充実させる基礎資料とする。

3. 研究の方法

今回の研究対象とした「赤堀ふれあいまつり」とボランティア内容の概要を以下に示す。

(1) 参加したイベントボランティア

「赤堀ふれあいまつり2020」【2020年10月22日開催】

(2) 参加学生数

ユマニテク短期大学1年生22名（男子2名、女子20名）

※選択的な希望調査により参加学生を募った。

(3) 「赤堀ふれあいまつり2020」の内容と学生がおこなったボランティア活動の概要

赤堀ふれあいまつり実行委員会の主催による本イベントは、赤堀人權のまちづくり推進委員会が、「笑顔でつなげるまちづくり」をテーマに、地域の子供たちが参加する毎年行っている地域のお祭りである。運営事務局は、四日市市役所総務部の管轄する人權プラザ赤堀である。2020年度は、コロナ感染症対策を懸念し、同市近隣地区の常磐井地区や浜田地区などの近隣の祭りが相次いで中止となったが、赤堀地区ではコロナ感染症対策を徹底し、イベント規模を縮小して実施することになった。

本イベントは、まつりの実行委員会のメンバーが中心になり、運営の企画や催行を担っている。学生ボランティアは、四日市市職員や実行委員会担当者によるボランティアスタッフ人員割り当て表に従い、子ども縁日と短大ブースの運営スタッフとして活動した。子ども縁日の企画・準備は実行委員が担当し、短大ブースの企画・準備は短大の教員が担当した。そのため、学生は企画や内容に関わることなく、事前に決められたプログラムに従って準備から運営、最後の後片付け、ゴミ拾いまでの活動を行った。

例年は、和太鼓演奏や人形劇をはじめ音楽やダンスなどのステージ、お楽しみ大抽選会や、飲食ブースで、子ども縁日コーナーなど幅広い年代の人々が参加し楽しめるようになっていたが、今年は、いわゆる「3密」を避けるために混雑するステージイベントと抽選会を全て中止した。そのため、飲食ブース、子ども縁日コーナー、短大ブース（スライム作成）、地元近隣高校、地元企業のブースのみの設置となった。多くの参加者がいたが、飲食物を持ち帰る家庭が多かったためか会場の滞在時間が短く、例年よりも混雑していない様子であった。

(4) 活動の交換の検証と調査方法

イベント実施にともなうボランティア活動の効果をはかるための調査として、Web回答による「ボランティア参加報告書」と最終授業で実施した「Webアンケート」を行った。設問は、それぞれ選択式と自由記述式を設けた。

4. 調査内容

最終の授業時に、Webによるアンケートを実施した。回答項目は次の①～④であり、それぞれの項目について「そう思う」から、「そう思わない」までの5段階評価で実施した。

- ①ボランティアの大切さが分かった
- ②ボランティアの大変さが分かった
- ③ボランティアは体力が必要だと思った
- ④ボランティアは事前の準備が必要だと思った

- ⑤ボランティアはタオルなどの持ち物が必要だと思った
- ⑥ボランティアは、良い経験になった
- ⑦ボランティアは、自分を成長させた
- ⑧ボランティア経験は、仕事に役立つと思った
- ⑨積極的に手伝うことができた
- ⑩現場で、何をしたら良いのか分からなかった
- ⑪手伝うことが、おっくうだった
- ⑫子どもと接するのは、難しいと思った
- ⑬相手の立場に立って行動するのは、難しいと思った
- ⑭ボランティアの内容を家族に話した
- ⑮2年生になってもボランティアに参加したい
- ⑯将来、ボランティアに参加したい
- ⑰ボランティアが、予想した内容と違うことがあった
- ⑱ボランティアで得るものはあまりなかった
- ⑲ボランティアに参加したくないと思ったことがある
- ⑳ボランティアは体が疲れる
- ㉑もっと楽なボランティアなら参加したい
- ㉒できればボランティアは参加したくない

5. 結果と考察

(1) 赤堀ふれあいまつり参加者の分析結果

赤堀ふれあいまつりに参加した学生が、ボランティア活動をどのように思っているのかを分析するために、全体の回答と赤堀ふれあいまつりへの参加群とその他の活動への参加群の2群に分けて分析することにした。

表1 ボランティア参加場所

ボランティア場所	参加者数
赤堀 ふれあいまつり	22 40.0%
ウェルカメよっか いち（環境清掃）	45 81.8%
四日市 じどうかんまつり	30 54.5%
みえこどもの城 イベント	9 16.4%
合計	106 100.0%

※参加数は延べ人数である（学生実数ではない）。

学生が学外のボランティア活動参加した述べ回数について、表1のとおり整理した。最も参加学生が多かったのが「ウェルカメよっかいち」で、45人（81.8%）が参加した。ただし、「ウェルカメよっかいち」は延べ3回実施されているため、参加者数が多い結果となった。2番目に多かったのは午前と午後の二交代で行われた「四日市じどうかんまつり」で、参加者は30人（54.5%）であった。3番目に多かったのは、「赤堀ふれあいまつり」で、22人（40.0%）が参加した。みえこどもの城は、9人（16.4%）が参加した。

表2-1 ボランティア活動の振り返り（その1）

	①ボランティアの大切さが、分かった		
	全体	赤堀群	その他群
5.そう思う	51 92.7%	28 93.3%	23 92.0%
4.ややそう思う	4 7.3%	2 6.7%	2 8.0%
3.どちらでもない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

①「ボランティアの大切さが分かった」の質問で、1番多いのは「そう思う」の92.7%であった。大学の講義でボランティアの話を多く聞いてきたとはいえ、実際に現場でボランティア活動を行うことによって、学生はボランティアの大切さを現場の活動で身をもって感じたとされる。積極群と消極群とでは、大きな違いは認められなかった。

表2-2 ボランティア活動の振り返り（その2）

	②ボランティアの大変さが、分かった		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	50 90.9%	28 93.3%	22 88.0%
4.ややそう思う	3 5.5%	1 3.3%	2 8.0%
3.どちらでもない	1 1.8%	0 0.0%	1 1.0%
2.やや思わない	1 1.8%	1 3.3%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

- ②「ボランティアの大変さが分かった」の質問で、1番多いのは「そう思う」の90.9%であった。
- ①と同じように、大学の講義でボランティアの話をどれだけ聞いていても、実際に現場でボランティア活動を行うことによって、学生はボランティアの大変さを身をもって感じたと思われる。積極群の「そう思う」が93.3%で、消極群の「そう思う」が88.0%と積極群の方がやや多かった。

表2-3 ボランティア活動の振り返り（その3）

	③ボランティアは体力が必要だと思った		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	43 78.2%	26 86.7%	17 68.0%
4.ややそう思う	10 18.2%	3 10.0%	7 28.0%
3.どちらでもない	2 3.6%	1 3.3%	1 4.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

- ③「ボランティアは体力が必要だと思った」の質問で、1番多いのは「そう思う」の78.2%であった。他の項目と同じように、実際に現場でのボランティア活動を経験することを通して、ボランティアは体力が必要であることを感じたと思われる。積極群の「そう思う」が86.7%であったに対して、消極群の「そう思う」が68.0%であった。積極群は、1日がかりのボランティア活動に平均1.13回の参加であったのに対して、消極群は1日がかりのボランティア活動に平均1.08回の参加だった。積極群は1日がかりのボランティア活動に参加しようとする積極性があるのに対して、消極群は体力的に楽な半日だけのボランティアに参加した学生の割合が多かったためと考えられる。

表2-4 ボランティア活動の振り返り（その4）

	④ボランティアは事前の準備が必要だと思った		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	41 74.5%	24 80.0%	17 68.0%
4.ややそう思う	14 25.5%	6 20.0%	8 32.0%
3.どちらでもない	0 0.0%	1 3.3%	0 0.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

- ④「ボランティアは事前の準備が必要だと思った」の質問で、1番多いのは「そう思う」の74.50%であった。ボランティア活動を行うためには、事前準備に十分すぎるほどの時間をかけて参加する。ところが、学生は気軽に「先生、～はないですか」と簡単に聞いてくる。準備していれば良いのだが、学校ではないので予想外の準備はない。学生は道具の必要性を感じた時、十分な事前準備の必要性を感じたと思われる。積極群の「そう思う」が80.0%であったに対して、消極群の「そう思う」が68.0%であった。積極群は1日がかりのボランティア活動の参加が多かったのに対して、消極群は1日がかりのボランティア活動の参加が、積極群よりも少なかった。ボランティアに参加するにはボランティアを行う対象をよく知っておく必要があるが、積極群は長時間にわたるボランティア活動で事前学習の必要性を感じたと思われる。

表2-5 ボランティア活動の振り返り（その5）

	⑤ボランティアは持ち物が必要だと思った		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	36 65.5%	19 63.3%	17 68.0%
4.ややそう思う	18 32.7%	10 33.3%	8 32.0%
3.どちらでもない	1 1.8%	1 3.3%	0 0.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

- ⑤「ボランティアはタオルなどの持ち物が必要だと思った」の質問で、1番多いのは「そう思う」の65.5%であった。屋外のボランティア活動の時は想像以上の汗をかくことが多い。十分すぎるほどの準備をして参加するのだが、学生は気軽に「先生、～はないですか」と簡単に聞いてくる。学校ではないので、予想外の事前準備はしていない。時には、現場で欲しいと思うものが突発的に発生することもあるため、事前の準備の必要性を感じたと思われる。積極群の「そう思う」が63.3%であったに対して、消極群の「そう思う」が68.0%であった。このような回答になった原因は、積極群は1日がかりのボランティア活動の参加が多いため持ち物の事前準備をしている学生が多かったからだと推測される。それに対

して、消極群は1日がかりのボランティア活動の参加が少ないため、持ち物の準備をしてなかった学生が多かったことが推測される。

表2-6 ボランティア活動の振り返り（その6）

	⑥ボランティアは、良い経験になった		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	51 92.7%	29 96.7%	22 88.0%
4.ややそう思う	3 5.5%	1 3.3%	2 8.0%
3.どちらでもない	1 1.8%	0 0.0%	1 4.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑥「ボランティアは、良い経験になった」の質問で、1番多いのは「そう思う」の92.7%であった。このことから、実際に現場でボランティア活動を行うことによって、学生はボランティア活動の大切さを実体験として理解したと思われる。

積極群の「そう思う」が96.7%であったに対して、消極群の「そう思う」が積極群よりもやや少ない88.0%であった。このような回答になった原因は、積極群は1日がかりのボランティア活動の参加が多いため体験した内容が多く、内容も濃いものとなったからであり、それに対して、消極群は1日がかりのボランティア活動の参加が少なく、学生の体験内容も少なかったためと推測される。

表2-7 ボランティア活動の振り返り（その7）

	⑥ボランティアは、自分を成長させた		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	43 78.2%	26 86.7%	17 68.0%
4.ややそう思う	9 16.4%	4 13.3%	5 20.0%
3.どちらでもない	3 5.5%	0 0.0%	3 12.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑦「ボランティアは、自分を成長させた」の質問で、1番多いのは「そう思う」の78.2%であった。実際に現場でボランティア活動を行うと、授業では得られない多くの体験がある。学生達は、ボランティアの大切さを、現場の活動で身をもって感じたと思われる。

積極群の「そう思う」が86.7%であったに対して、消極群の「そう思う」が積極群よりも少ない68.0%であった。このような回答になった原因は、積極群が1日がかりのボランティア活動の参加に参加し、多くの体験ができたと思われるからであり、それに対して、消極群は1日がかりのボランティア活動の参加が少ないことから、その体験の質と量の差がこの結果に表れていると思われる。

表2-8 ボランティア活動の振り返り（その8）

	⑦ボランティア経験は、仕事に役立つと思った		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	49 89.1%	28 86.7%	21 84.0%
4.ややそう思う	4 7.3%	2 13.3%	2 8.0%
3.どちらでもない	2 3.6%	0 0.0%	2 8.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑧「ボランティア経験は、仕事に役立つと思った」の質問で、1番多いのは「そう思う」の89.1%であった。現場で体験するボランティア活動は、授業で学習する内容とは異なる。現場では毎回同じことは起こりえないのであり、ボランティア体験では、授業では得られない多くのことを経験できたと思われる。

積極群の「そう思う」が86.7%であったに対して、消極群の「そう思う」が84.0%であった。積極群と消極群とでは大きな違いは認められなかった。

表2-9 ボランティア活動の振り返り（その9）

	⑨積極的に手伝うことができた		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	37 67.3%	23 76.7%	14 56.0%
4.ややそう思う	15 27.3%	7 23.3%	8 32.0%
3.どちらでもない	3 5.5%	0 0.0%	3 12.0%

2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

- ⑨「積極的に手伝うことができた」の質問で、1番多いのは「そう思う」の67.3%であった。普段からボランティア活動やイベントの経験があれば、積極的に行動がとれる。しかし、その経験が少ないと何をすれば良いのか判断できずに傍観者となってしまうがちである。

積極群の「そう思う」が76.7%であったに対して、消極群の「そう思う」が56.0%であった。このような差となった原因は、ボランティア活動に参加した経験や前向きな気持ちによるところが大きい。そのため、自分は何をすれば良いのか戸惑うことも少ない。そのため、特に学校教育の一環でボランティア活動に参加するためには事前指導を行っているのだが、それをきちんと聞いていたのか、聞いていなかったのかの違いがボランティア活動の行動を左右することがわかった。

表2-10 ボランティア活動の振り返り（その10）

	⑩現場で、何をしたら良いのか分からなかった		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	13 23.6%	4 13.3%	9 36.0%
4.ややそう思う	9 16.4%	4 13.3%	5 20.0%
3.どちらでもない	15 27.3%	6 20.0%	9 36.0%
2.やや思わない	13 23.6%	11 36.7%	2 8.0%
1.思わない	5 9.1%	5 16.7%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

- ⑩「現場で、何をしたら良いのか分からなかった」の質問で、1番多いのは「どちらでもない」の27.3%であった。これは、⑨の「積極的に手伝うことができた」と同様で、普段からボランティア活動の経験やイベントの経験があれば、積極的に行動がとれるが、その反対に、その経験が少ないと何をすれば良いのか判断できずに傍観者となってしまうがちであるからである。

積極群の「やや思わない」が36.7%であったに対して、消極群の「そう思う」と「どちらでもない」が56.0%であった。このように大きな差となった原因としては、前項と同様で、事前指導における学生の受講姿勢の差によるものであると推測される。

表2-11 ボランティア活動の振り返り（その11）

	⑪手つだうことが、おっくうだった		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	11 20.0%	3 10.0%	8 32.0%
4.ややそう思う	4 7.3%	0 0.0%	4 16.0%
3.どちらでもない	5 9.1%	1 3.3%	4 16.0%
2.やや思わない	7 12.7%	2 6.7%	5 20.0%
1.思わない	28 50.9%	24 80.0%	4 16.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑪「手伝うことが、おっくうだった」の質問で、1番多いのは「思わない」の50.9%であった。ボランティア活動に参加する前に、ボランティア内容は説明済みである。そのため、半数の学生はそれなりに覚悟して参加しているため、おっくうになることは少なかった。

積極群の「思わない」が80.0%であったに対して、消極群は16.0%であった。また、積極群は「そう思う」が10.0%であったに対して、消極群は32.0%であった。このように積極群と消極群とで相反する結果になった原因としては、⑨と同様に、ボランティア活動に対しての積極的な気持ちがあるかどうかの差によると思われる。過去にボランティア活動の経験があれば、作業内容がよく分かっているので作業がおっくうになることも少ない。しかし、その経験が少ないと何をすれば良いのかよく分からないため、作業がおっくうになりがちだからである。

表2-12 ボランティア活動の振り返り（その12）

	⑫子どもと接するのは、難しいと思った		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	16 29.1%	7 23.3%	9 36.0%
4.ややそう思う	15 27.3%	7 23.3%	8 32.0%
3.どちらでもない	11 20.0%	7 23.3%	4 16.0%
2.やや思わない	9 16.4%	6 20.0%	3 12.0%
1.思わない	4 7.3%	3 10.0%	4 4.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

- ⑫「子どもと接するのは、難しいと思った」の質問で、1番多いのは「そう思う」の29.1%であった。回答が全体にばらついているが、ボランティア活動に参加する学生は、すでに子どもと接する経験がある学生やほとんど子どもと接する経験がない学生もいるためであると考えられる。

積極群は消極群に比べて、子どもと接するのは難しいととらえている学生の割合が少ない。その理由として、積極群は、自ら子どもたちと接しようとする意識が高いことがうかがえる。また、ボランティア体験を通じて保育実習や幼稚園実習につなげようとする意識もあると思われる。それに対して、消極群は子どもと接するのは好きだが、実際に子どもへ声掛けをするタイミングやきっかけ作りができないためであると思われる。

表2-13 ボランティア活動の振り返り（その13）

	⑬相手の立場に立って行動するのは、難しいと思った		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	25 45.5%	11 36.7%	14 56.0%
4.ややそう思う	9 16.4%	6 20.0%	3 12.0%
3.どちらでもない	11 20.0%	5 16.7%	6 24.0%
2.やや思わない	7 12.7%	5 16.7%	2 8.0%
1.思わない	3 5.5%	3 10.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

- ⑬「相手の立場に立って行動するのは、難しいと思った」の質問で、1番多いのは「そう思う」の45.5%であった。質問⑫と同様に、回答が全体にばらついている。この理由としては、他人の気持ちに寄り添って考えることを経験したか、他人の気持ちに寄り添って考えられる学生とそうでない学生がいるためであると思われる。

積極群は消極群に比べて、相手の立場に立って行動するのは難しいととらえている学生の割合が少ない。積極群は相手の立場に立って行動した経験が多かったか、相手の立場に立って行動できる学生であると考えられるのに対して、消極群は子どもと接するのは好きだが、実際に相手の立場に立って行動することができないためであると思われる。

表2-14 ボランティア活動の振り返り（その14）

	⑭ボランティアの内容を家族に話した		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	34 61.8%	22 73.3%	12 48.0%

4.ややそう思う	10 18.2%	3 10.0%	7 28.0%
3.どちらでもない	6 10.9%	3 10.0%	3 12.0%
2.やや思わない	3 5.5%	1 3.3%	2 8.0%
1.思わない	2 3.6%	1 3.3%	1 4.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

- ⑭「ボランティアの内容を家族に話した」の質問で、1番多いのは「そう思う」の61.8%であった。このことから、学生達が普段から家族と積極的にコミュニケーションをとっていることがうかがえる。

積極群は、消極群に比べて、体験した内容や学んだ内容など家族と積極的にコミュニケーションをとっていることがわかるとともに、自分の体験内容を相手が理解できるように説明することにより、経験の積み重ねがわかりやすい実習記録の書き方につながる。それに対して、消極群は家族とのコミュニケーションをあまりとっていない傾向が認められた。自分の体験を自分の言葉でコミュニケーションすることが少ないと実習記録で苦勞することが予想される。

表2-15 ボランティア活動の振り返り（その15）

	⑮ 2年生になってもボランティアに参加したい		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	33 60.0%	21 70.0%	12 48.0%
4.ややそう思う	19 18.2%	9 30.0%	10 40.0%
3.どちらでもない	3 10.9%	0 0.0%	3 12.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

- ⑮「2年生になってもボランティアに参加したい」の質問で、1番多いのは「そう思う」の60.0%であった。ボランティア活動は、学内の学習と異なり様々な体験をすることができる。同じような活動にインターンシップがあるが、これも学生の中に様々な活動することでキャリアデザインを深めることにつながる。

積極群は消極群に比べて、2年生になってもボランティアに参加したい気持ちが高いことがうかがえるが、それに対して、消極群は否定的な意見はないものの、積極群ほど前向

きにボランティア活動をしたいと考えている学生が少ないことがうかがえた。

表2-16 ボランティア活動の振り返り（その16）

	⑩将来、ボランティアに参加したい		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	22 40.0%	17 56.7%	5 20.0%
4.ややそう思う	26 47.3%	12 40.0%	14 56.0%
3.どちらでもない	7 12.7%	1 3.3%	6 24.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑩「将来、ボランティアに参加したい」の質問で、1番多いのは「ややそう思う」の47.3%であった。ボランティア活動に参加することは、普段関わることの無い人と関わる体験が得られるため、人間的に成長することが望める。しかし、授業の一環として行うものとは異なるため、⑨の質問に比べるとやや積極性に欠けることがうかがえた。

積極群は消極群に比べて、社会人になってもボランティアに参加したい気持ちが高いことがうかがえる。それに対して、消極群は否定的な意見はないものの、積極群ほど前向きにボランティア活動をしたいと考えている学生が少ないことがうかがえた。

表2-17 ボランティア活動の振り返り（その17）

	⑪ボランティアが、予想した内容と違うことがあった		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	8 14.5%	1 3.3%	7 28.0%
4.ややそう思う	14 25.5%	6 20.0%	8 32.0%
3.どちらでもない	18 32.7%	8 26.7%	10 40.0%
2.やや思わない	9 16.4%	9 30.0%	0 0.0%
1.思わない	6 10.9%	6 20.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑪「ボランティアが、予想した内容と違うことがあった」の質問で、1番多いのは「どちらで

もない」の32.7%であった。ボランティア活動は学内での授業とは異なり、現場によって予定外の作業が発生することがよくある。そうした事態を受け止めることができるか、それとも聞いてなかったと思うのかの違いがあったと思われる。特にボランティア経験が少ない学生は予定外の作業や内容に対して、不満につながることがあると推測される。

積極群は消極群に比べて、ボランティア活動が予想どおりだったと思った学生が多くいるが、消極群にはボランティア活動が予想どおりだったと思った学生は皆無である。事前学習では、ボランティア活動では予定以外の依頼があることを学習している。積極群は事前説明を聞いており臨機応変に対応できたが、消極群はその説明をよく理解しておらず、突然の依頼がストレスになったと思われる。

表2-18 ボランティア活動の振り返り（その18）

	⑮ボランティアで得るものはあまりなかった		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	4 7.3%	0 0.0%	7 16.0%
4.ややそう思う	3 5.5%	0 0.0%	3 12.0%
3.どちらでもない	9 16.4%	0 0.0%	9 36.0%
2.やや思わない	9 16.4%	0 0.0%	9 36.0%
1.思わない	30 54.5%	30 100.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑮「ボランティアで得るものはあまりなかった」の質問で、1番多いのは「思わない」の54.5%であった。ボランティア活動は学内の授業と異なり、現場でこそその貴重な体験として得られるものがある。その貴重な体験を得たものか、あるいは予定外の作業ととらえるかは本人次第である。このような体験を前向きにとらえた学生を積極群とした。それに対して、「ボランティア活動で得るものがあまりなかった」に肯定的な学生を消極群とした。

積極群は消極群に比べて、ボランティア活動を貴重な体験として前向きにとらえており、自分を成長させたと感じている。それに対して、消極群では、ボランティア活動は自分にとって得るものがなかったや得た感覚が少なかったと感じたのだろうと思われる。前述の質問とも関係するが、消極群は積極的に行動できなかった、あるいは積極的に行動しなかった。つまり、自分はどうすればいいのかよくわかっていないためであると思われる。

表2-19 ボランティア活動の振り返り（その19）

	⑩ボランティアに参加したくない と思ったことがある		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	3 5.5%	0 0.0%	3 12.0%
4.ややそう思う	5 9.1%	0 0.0%	5 20.0%
3.どちらでもない	9 16.4%	1 3.3%	8 32.0%
2.やや思わない	11 20.0%	3 10.0%	8 32.0%
1.思わない	27 49.1%	26 86.7%	1 4.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑩「ボランティアに参加したくないと思ったことがある」の質問で、1番多いのは「思わない」の49.1%であった。ボランティア活動は学内の授業と異なり現場で作業をする。時には屋外作業もあるので、事前の準備が必要である。また、初めての現場へ出かけ、学内のように慣れた環境ではない。そのため、ボランティア活動への作業では不安に感じる内容もあるため、そのようなことを考えると、参加がおっくうになりがちである。

積極群では、ボランティア活動に参加したくないと思ったことは皆無であったばかりか、むしろ楽しみにしているようであった。それに対して、消極群は普段の環境と異なりまったく知らない所へ出かけるため、ボランティア活動に参加したくないと思った学生がいたことが分かった。

表2-20 ボランティア活動の振り返り（その20）

	⑪ボランティアは体が疲れる		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	6 10.9%	3 10.0%	3 12.0%
4.ややそう思う	19 34.5%	8 26.7%	11 44.0%
3.どちらでもない	17 30.9%	8 26.7%	9 36.0%
2.やや思わない	6 10.9%	4 13.3%	2 8.0%
1.思わない	7 12.7%	7 23.3%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑳「ボランティアは体が疲れる」の質問で、1番多いのは「ややそう思う」の34.5%であった。ボランティア活動は屋外作業もあり、立ち仕事も多いので体力が必要な作業が多い。普段から体を鍛えて体力があればよいが、そうでなければボランティアは務まらない。

積極群は、普段から運動をしており体力的に問題がないように思われた。それに対して、消極群はボランティア活動をするための体力にやや欠ける傾向が認められた。

保育の現場では何よりも体力が必要である。普段から体を鍛えることの必要性が示唆された。

表2-21 ボランティア活動の振り返り（その21）

	㉑もっと楽なボランティアなら参加したい		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	1 1.8%	0 0.0%	1 4.0%
4.ややそう思う	6 10.9%	3 10.0%	3 12.0%
3.どちらでもない	24 43.6%	8 26.7%	16 64.0%
2.やや思わない	11 20.0%	6 20.0%	5 20.0%
1.思わない	13 23.6%	13 43.3%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

㉑「もっと楽なボランティアなら参加したい」の質問で、1番多いのは「どちらでもない」の43.6%であった。ボランティア活動には程度の差はあるが、楽なボランティア活動はないと考えた方がよい。それは、屋外作業や立ち仕事も多いため、体力を要する作業が多いからである。ボランティア活動に参加するのはそれなりに覚悟が必要である。

積極群は消極群に比べ、楽なボランティアに参加したいと考えている学生は少ない。どのような内容であっても積極的に参加したいという意思が伝わってくる。それに対して、消極群は、授業のノルマであるボランティア活動に参加するのならば、できるだけ楽なボランティア活動に参加したいとの考えがあることが推測される。

表2-22 ボランティア活動の振り返り（その22）

	㉒できればボランティアは参加したくない		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	1 1.8%	0 0.0%	1 4.0%
4.ややそう思う	1 1.8%	0 0.0%	1 4.0%
3.どちらでもない	9 16.4%	1 3.3%	8 32.0%

2.やや思わない	13 23.6%	3 10.0%	10 40.0%
1.思わない	31 56.4%	26 86.7%	5 20.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

②「できればボランティアは参加したくない」の質問で、1番多いのは「思わない」の56.4%であった。ボランティア活動は授業の一環で行われている。そのため、ボランティア活動は強制である。学内とは異なり環境の異なる学外の作業をやりたくない学生もいると思われる。ほとんどの学生は経験を深めたいと考えているのだが、できるだけ楽をして資格を得たいと考えている学生にはストレスとなる活動であると思われる。

積極群は、できればボランティア活動に参加したくないと考える学生は皆無であり、苦勞をするからこそ得るものがあると前向きに考えていると思われる。それに対して、消極群は授業のノルマであるボランティア活動に強制的に参加するのが、苦痛であると思われる。できることなら、ボランティア活動に参加したくないとの考えが、この結果から垣間見えた。

5. まとめ

2020年度「地域ボランティア実践」による学生のボランティア活動は、計4回実施できた。新型コロナの影響で各イベントが中止になる中、学生や参加者の安全管理に対処しながら学外のボランティア活動を行ったが、その結果、1名の感染者を出すこともなく、またボランティア先に迷惑をかけることもなく無事に終了することができた。

今回、参加した学生にとって、4か所とも適切なボランティア活動であったとの報告があった。特に「こどもの城」や「じどうかんまつり」では、子どもへの声掛けの仕方など専門職員からの適切な指導を得ることができ、これらのイベントに参加できた学生にとっては、実習に向けた貴重な体験として得られるものが多かったと考えられる。

保育士養成課程に入学した全ての学生が、常に高い意識を持ってボランティア活動に取り組んでいるとは限らない。今回の学生アンケートやリフレクション等の解析では、参加学生の意識の違いによって、ボランティア活動に対してどのように考えていたのか、あるいはどのように行動していたのかの差となって明確になった。特に、意識の低い学生では、ボランティア活動で積極的に行動することができず、子ども達への声掛けや接し方もうまくできなかったことがわかる。さらに準備や撤収の際に、積極的に動くことができなかったなどの行動面での反省のコメントが現れたことから、その理由が明らかになった。そのことから、今後は、ボランティア活動に参加する学生に対してのさらなる事前指導が大切であることを痛感する。

ボランティア活動は、単に参加するだけの活動ではないことを学生に十分に指導する必要があるが、以上のことを通して、今後、適切な事前指導として重要かつ必要な事柄として、次の6点をまとめておく。

- (1) 普段から基礎体力などを鍛えておき健康面に配慮する。
- (2) ボランティア活動に参加する時は屋外活動もあるので、準備物は入念に確認する。
- (3) ボランティア現場では何をすればいいのか、考えながら行動をする。
- (4) 子どもと接することが何よりの目的のため、常に子どもの気持ちになって行動する。
- (5) ボランティア活動は臨機応変な活動であるため、予定通りの活動にならないことが多いことを留意する。
- (6) 普段から家族や友人等とコミュニケーションを図り、1日の行動を振り返る時間をつくる。

以上のことに配慮しながら、十分な学生指導を行った上でボランティア活動に参加することができれば、ボランティア活動の学修効果がより期待できると、今回のアンケート結果を通して学ぶことができた。

【参考文献】

- (1) 吉岡良介他,幼稚園教育実習後のボランティア活動の意義について,山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要,pp.201-214,2020.3
- (2) 川上輝昭,子どもから学ぶ力を育てる保育者養成の試み,名古屋女子大学紀要,pp.127-139,2020.3
- (3) 田中雅章,田村禎章,地域ボランティア実践における学生ボランティアの実践報告,ユマニテク短期大学紀要,Vol.4,pp.35-46,2021.3